

## 第2学年1組 国語科学習指導案

令和元年10月9日(水) 5校時  
於・2年1組教室 指導者 福本 詩織

- 1 単元名 お話のつづきを書こう  
教材名 『わにのおじいさんのたからもの』

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

#### 1 〔知識及び技能〕

- (1) ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。  
オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。  
ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

#### 2 〔思考力、判断力、表現力〕

##### C 読むこと

- (1) ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。  
イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。  
ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。  
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

本単元で扱う『わにのおじいさんのたからもの』は、「おにの子」の優しさが、文章の細部に描かれている作品である。この物語は、「おにの子」と「わにのおじいさん」との対話を中心に進み、その際の2人の言葉やおにの子の行動からも、おにの子の性格を読み取ることができる。わにのおじいさんは宝物を知らないおにの子に、宝物の隠し場所を教え、おにの子は目的地へと出発する。やっとたどり着いた目的地でおにの子が見つけたものは目の前に広がる素晴らしい夕焼けで、それが宝物なのだと納得する。わにのおじいさんとおにの子で宝物の解釈が大きく異なることがこの作品の魅力であり、児童にとって、結末の意外性を感じることができる作品になっている。

児童はこれまでに、読むことの学習として第2学年の『えいっ』や『きつねのおきゃくさま』で登場人物の行動と気持ちについて読み取る学習に取り組んできた。『えいっ』では、登場人物の子ぐまになりきって日記を書くことを通して気持ちを考える学習をした。『きつねのおきゃくさま』では、主人公のきつねの気持ちが読み取れる文章に線を引き、どんな気持ちかを文章から想像する学習を行った。こうした学習を通して、児童たちは登場人物の行動や気持ちの読み取り方を理解してきている。

そこで、本単元では、「読み取る力」や「お話を想像する力」をつけるため、「お話のつづきを書こう」という言語活動を設定する。「お話のつづきを書こう」というゴールに向けて、大体のあらすじや登場人物の行動、気持ちを読み取ること、読み取ったことをもとにして想像力を働かせることをねらいとしている。

(2) 児童の実態 19名 (男子12名 女子7名)

(調査実施日 7月10日)

① 物語の学習で、登場人物の気持ちを想像することはできますか。

できる	だいたいできる	あまりできない	できない
7名【35%】	10名【54%】	2名【11%】	0名【0%】

〈理由〉

【できる・だいたいできる】

・いろいろ考えると面白いから ・文を読めばわかるから ・想像するのが好きだから

【あまりできない・できない】

・想像するのが難しいから

② 登場人物の気持ちがわかる場所を見つけることはできますか。

できる	だいたいできる	あまりできない	できない
9名【47%】	8名【42%】	2名【11%】	0名【0%】

〈理由〉

【できる・だいたいできる】

・『きつねのおきゃくさま』で見つけることができたから ・見つけるのが面白いから

・見つけるのが得意だから

【あまりできない・できない】

・探すのが難しいから ・得意じゃないから

③ 自分の考えを話すことはできますか。

できる	だいたいできる	あまりできない	できない
11名【58%】	5名【27%】	3名【15%】	0名【0%】

〈理由〉

【できる・だいたいできる】

・話すのが好きだから ・友達が拍手してくれるから ・友達に聞いてもらえるから

・グループで考えることが好きだから

【あまりできない・できない】

・違うかもしれない不安があるから ・恥ずかしいから

④ 自分の考えに理由をつけてはなすことができますか。

できる	だいたいできる	あまりできない	できない
7名【35%】	9名【54%】	3名【21%】	0名【0%】

〈理由〉

【できる・だいたいできる】

・いつもやっているから ・友達に教えることができるから ・みんなで話すのが好き

【あまりできない・できない】

・恥ずかしいから ・難しいから ・あまり考えられないから

⑤「おに」と聞くと、どのような「おに」をイメージしますか。

- ・青いおに ・赤いおに ・黒いおに ・こわいおに ・キバがはえている
- ・つのが生えている ・おそろえそう ・すこしよわい

⑥「たからもの」と聞くと、どのようなものをイメージしますか。

- ・キラキラのお金 ・コインがいっぱい ・黄金 ・金貨 ・キラキラするもの
- ・宝石 ・キラキラしてうめてある ・お金
- ・家族、いのち ・本当にあるの!? ・どこにあるのか知りたい ・ほしい!

意識調査の結果から、9割の児童が物語文の学習において、登場人物の気持ちを想像することができる、大体できるという意識をもっていることがわかった。『きつねのおきゃくさま』で、きつねの性格や気持ちがわかる文章を見つけたり、どのような気持ちかを友達と発表し合ったりする活動をしたことで自信がついたのだろう。また、友達に発表することについても8割の児童が抵抗なくできていることがわかった。友達に聞いてもらえることの喜びを感じているという回答も見られた。一方で、気持ちを想像したり、文章から見つけたりすることが苦手だと感じている児童が2名いることもわかった。今までの学習を振り返って難しさを感じているようだった。

また、児童が「おに」や「たからもの」にどのようなイメージをもっているか調査した。今まで触れてきた物語から、やはり「おに」というと「こわい」「おそろえそう」といった回答があった。一方で色のイメージを答えたり、「すこしよわい」といったイメージを答えたりする児童もいたので、それぞれの児童が触れてきた物語によって抱くイメージは違うということがわかった。『わにのおじいさんのたからもの』では、心優しいおにが出てくるということで、新鮮な思いをもつことができるだろう。「たからもの」について、おにの子は美しい夕焼けが宝物なのだと思っているが、児童の中には夕焼けが宝物という認識はないと思われる。

前学年程度の学力調査型テストの結果から、特に気持ちを想像して選択する問題、登場人物の気持ちを想像して書く問題に誤答が多かった。自分で文章を読むときに、登場人物の行動や言葉から気持ちを考えたり、読み取ったりすることは苦手だということがわかる。問題を解く際に全体を読まずに解答する様子も見られる。字を追っているだけで、想像しながら読むことの必要性を感じていない様子が伺える。

### (3) 仮説との関わりと主な手立て

#### 仮説1

「読むこと」の学習の場において、つけたい力を明確にし、指導過程や指導方法を工夫改善すれば、児童の読みの力を効果的に高めることができるであろう。

- ① 「お話の続きを書く」ことを単元のゴールとし、学習を進めていく。話の続きを書くためには、教材文の内容をしっかりと読み取る必要がある。話の大体のあらすじや、場面ごとにおにの子がしたことが確認できるようなワークシートを用意し、話を整理しながら読むことができるようにする。また、話の続きを書くために必要な情報をまとめるワークシートも用意し、お話作りをする際に、そのワークシートを使いながら書くことができるようにする。話の続きを書くためには、どのような情報が必要になってくるかを考えながら学習に取り組めるようにする。
- ② 話の続きを書くためには、教材文を読み取った上で、登場人物が何を話し、どのような行動をするか、想像していく必要がある。そのために、学習の中であまり詳しく書かれていない、わにの

おじいさんとおにの子の対話の場面やおにの子の旅の様子を細かく想像してノートやワークシートにまとめる活動を設定する。話しているときの登場人物それぞれの気持ちや旅の途中の様子を教材文から想像することで、抵抗なくお話作りにつなげられるようにする。

- ③ 学習計画を児童と作り、どのような学習をしていくのかを明確にして見通しがもてるようにする。ゴールに向かって学習を進めていくことで意欲的に取り組み、毎時間のめあてを自分で確認することができる。また、毎時間の授業の流れについても、めあてを確認し、音読をする、友達と話合っって自分の考えをまとめていく、といった一定の流れを決め、見通しをもって進めていけるようにする。
- ④ 読みを深めるために音読を繰り返し行う。一人で行うだけでなく、二人組やグループで読むなど、役割分担や形態を変えながら読むことで、楽しみながら教材文を読むことができるようにする。読み慣れていくなかで、読み方の調子も変わってくるだろう。登場人物の気持ちを考える一つの要素になるようにする。

## 仮説2

授業において、生徒指導の機能を生かした学習指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、生き生きと学ぶであろう。

- ① 自己決定の場を与える学習活動として、教科書でおにの子の気持ちがわかるところに線を引いたり、ノートで一度読み取ったことをまとめたりして自分の考えを決定できるようにする。教科書の中から見つけることが難しい児童には、線を引いたところから気持ちや行動を一緒に考えたり、話し合いをもとに友達の考えを参考にして考えたりできるようにする。教科書に線を引く、ノートに気持ちを書く、話し合う、ワークシートにまとめる、といった一連の流れの中で自己決定を繰り返すことで、自信がもてるようにしていく。
- ② 自己存在感を与える学習活動として、話の聞き方を徹底する。発表している児童の方向を見て話を聞き、周りの児童がしっかりと反応をすることを、その都度確認しながら学習を進めていく。そうすることで自分の話を聞いてもらえているという安心感をもつことができるようにする。また、自分の考えに自信をもって発言できるよう、机間指導の際にノートやワークシートの考えに対して教師から朱書きの評価を書きいれたり、「よく考えているね」などの声かけをしたりしていく。こうした手立てによって、安心して発言しても良いという雰囲気をもった学習集団になるようにする。
- ③ 共感的人間関係を育成する学習活動として、3、4人グループでの話し合い活動を行う。その際に、友達の発言に対して、「似ている」や「なるほど」といった反応や拍手をすることを徹底する。小グループで発表し合うことで、自分の考えに共感してもらい、考えが友達と違っていても否定されない、発表しても大丈夫だという安心感につなげていく。友達の考えをよく聞くことで、自分の考えを深め、自分の意見に自信をもって発表につなげることができるようにしていく。

### 3 単元の目標

- ・言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

【〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

【〔思考力、判断力、表現力〕読むこと】

- ・物語の内容や構成を基に、お話の続きを書こうとする。

【〔学びに向かう力、人間性等〕関心・意欲・態度】

### 4 学習指導計画（13時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動 (○) (・)	評価規準（評価の観点・評価方法） 【仮説との関わり】
第一次	1 } 3	<p>○全文を通読し、お話を読んで感じたことなどの感想を述べ合う。</p> <p>○感想などを基に学習の計画を立て、「お話のつづきを書こう」という学習のゴールに向けて見通しをもつ。</p> <p>○新出漢字や分からない語句の確認をし、お話を段落に分ける。</p>	<p>㊦音読や読み聞かせを通して登場人物の行動や会話の面白さに気付く、お話に興味をもつ。 (発言・ノート)</p> <p>【仮説1-④】</p> <p>㊦お話の続きを書く活動に興味をもち、学習に見通しをもとうとする。(発言・ノート)</p> <p>【仮説1-①③】</p>
第二次	4 } 10  (本時 10 / 13 )	<p>○それぞれの場面のおにの子の行動や気持ちを確認する。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わにのおじいさんに葉っぱをかけたとき</li> <li>・わにのおじいさんと話をしたとき</li> <li>・おじいさんからたからものことを聞いたとき</li> <li>・たからものの場所まで旅をして夕やけを見たとき</li> </ul> <p>○おにの子の人物像を捉える。</p> <p>○おにの子とわにのおじいさんの会話を読み、それぞれの気持ちを考える。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おにの子の気持ち</li> <li>・わにのおじいさんの気持ち</li> </ul>	<p>㊦登場人物の様子や気持ちを文章から読み取ろうとしたり、友達と話し合ってみようとする。 (発言・ノート・ワークシート)</p> <p>【仮説1-①②, 2-①②③】</p> <p>㊦おにの子の性格や様子がわかる言葉を文から読み取っている。 (ノート・発言・ワークシート)</p> <p>【仮説1-①④, 2-①】</p> <p>㊦文章から、おにの子やわにのおじいさんの様子、行動を読み取っている。(ノート・発言)</p> <p>【仮説1-①②, 2-①②③】</p>

		<p>○おにの子の旅の様子を読み取り，おにの子の行動や気持ちを想像する。</p> <p>○夕やけを見たときのおにの子の気持ちを考える。(本時)</p>	<p>㊦登場人物の様子や気持ちを表す言葉を見つけている。 (ノート・発言・ワークシート) 【仮説1-①④，2-①】</p> <p>㊧読み取ったことから，登場人物の様子や気持ちを想像している。(ノート・発言) 【仮説1-③④】</p>
第三次	<p>1 1 }          1 3</p>	<p>○今まで書いたワークシートをもとにお話の続きを書く。(2時間)</p> <p>○書いたお話を友達と発表し合う。</p>	<p>㊨物語の内容や構成を基に続きの話の内容を考えようとする。 (ワークシート・作成した話) 【仮説1-①②】</p> <p>㊩言葉には，内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (作成した話・発表)</p> <p>㊪想像を広げて読んだものから，自分の思いや考えをまとめた話を発表し合っている。 (作成した話・発表) 【仮説1-②，2-②③】</p>

## 第2学年1組授業実践

1. 単元名 お話のつづきを書こう  
『わにのおじいさんのたからもの』

### 2. 身に付けさせたい力

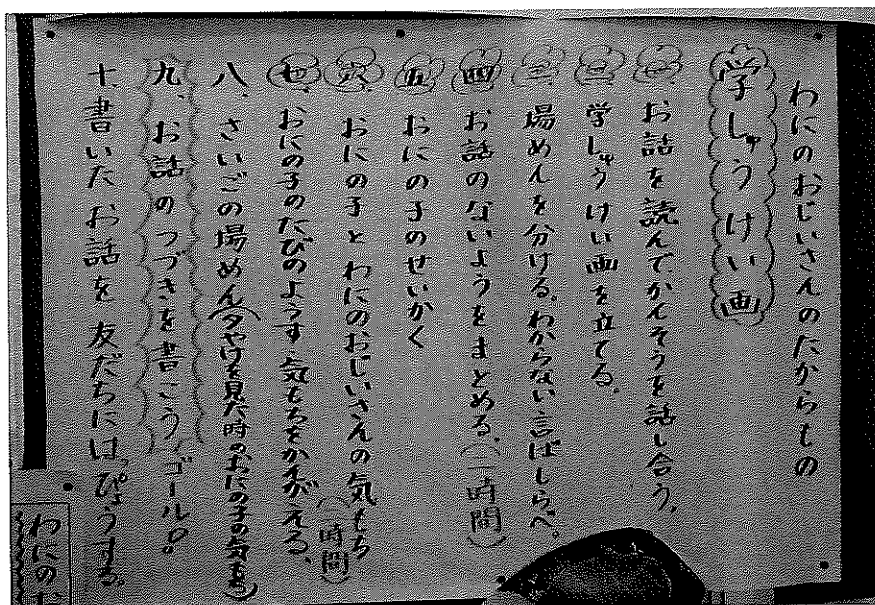
- ・登場人物のしたことや気持ちを読み取る力
- ・読み取ったことをもとに気持ちや行動を想像する力

### 3. 仮説検証のための手立て

## 仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

〈手立て①〉

見通しをもって学習をすすめられるように学習計画を立てる。



「お話のつづきを書こう」をゴールに、続きを書くために必要なことは何だろう？ということ子どもたちに問い、  
○お話をよく読まないといけない  
○登場人物がどんな人かを知らなくてはならない  
○最後の場面をしっかりと読まない  
と続きが書けない  
等の意見が出て、それをもとに計画を立てた。

学習計画の項目を一つずつ達成していくことでゴールに近づいていく楽しさを感じながら学習に取り組むことができた。

単元の計画を見ながら授業を進めていくことで、次の活動はこれだ、と見通しをもって取り組むことができた。また、毎時間の流れも同じにすることで、支援が必要な児童についても、活動がしやすくなり、学習に楽しく向かうことができていた。(仮説2 手立て①を参照)















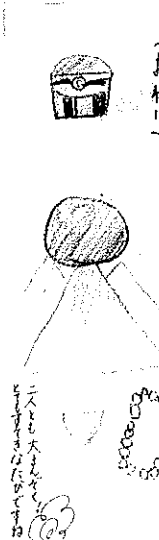
旅が大変だったというおにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。



おにの子が、おにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。

おにの子が、おにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。

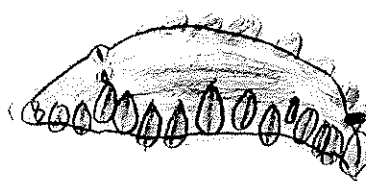
わにのおじいさんと一緒に、たからものを目指していくという続きを考えて書くことができた。また長い道のりを通っていったことを書くことができています。



おにの子が、おにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。



おにの子が、おにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。



おにの子が、おにの子の気持ちをお話を書くことができた。また、たからものを初めて見るおにの子の気持ちを想像して書くことができています。

おにの子の人柄やわにのおじいさんとのやりとりを読み取ることで、おにの子は「夕日」がたからものだと思ったこと、それをわにのおじいさんも受け入れたことを想像できている。

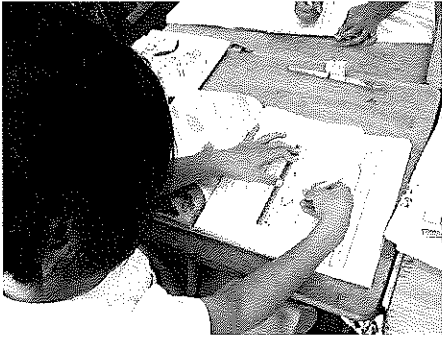


## 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

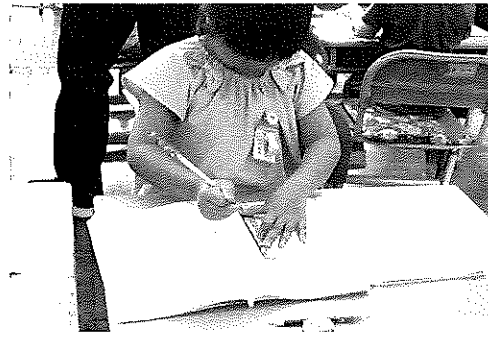
### 〈手立て①〉学習の流れを統一する。

それぞれの場面で自己決定を繰り返していく。毎時間の学習の流れを統一化することで見通しをもって取り組めるようにする。

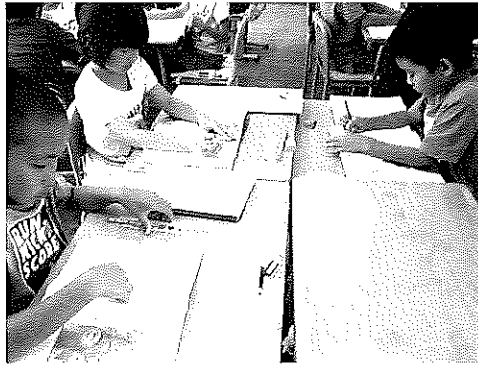
登場人物の気持ちなどがわかる  
ところに線を引く



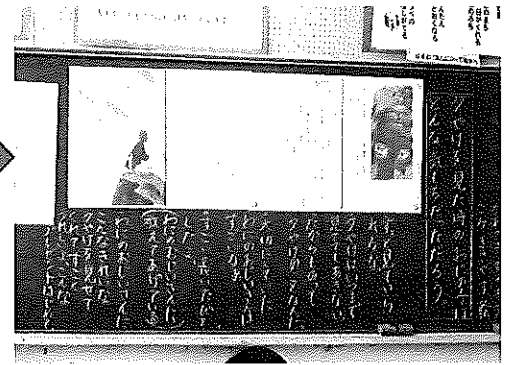
ノートに自分の考えを書く



自分の考えを友達と話し合う。

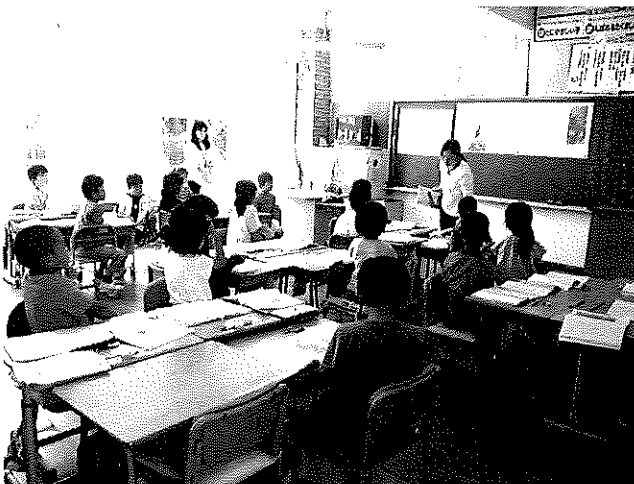


クラス全体で話し合う。



学習のサイクルを繰り返していくことで、支援が必要な児童にも活動がわかりやすく、活動しやすくなった。

### 〈手立て②〉話の聞き方を徹底し、教師も評価を行う。



話をしている人の方を向いて聞く、友達の発言に反応をする、という当たり前のことをしっかり行えるように徹底した。

☆顔だけではなく、体も向けよう！  
☆「わかりました」「同じです」「他に意見があります」の3つの反応は必ずしよう！  
☆困っている友達には声をかけてあげよう！



一人一人の考えを把握できるように見てまわった。また、悩んでいる児童には声をかけて一緒に考えた。



自分が発言してもよいという雰囲気  
の学習集団をつくっていくことが  
できた。朱書きの評価や声かけを行う  
ことで、子どもたちは自分の考えに  
自信をもつことができた。

よい考え！友達にも教えてあげて  
ね！という時には赤い波線を引く。

### 〈手立て③〉グループ活動での話し合いの場を設け、指導していく。

#### ○3、4人のグループでの話し合い活動

(ただ発表するだけでなく、友達の考えと似ているところや違うところを探しながら聞き合う)

#### ○「なるほど」「似ている」などの共感的な言葉かけ、反応の仕方を指導



友達の考えをよく聞  
こう！

みんなの考えの違う  
ところはどこかな。

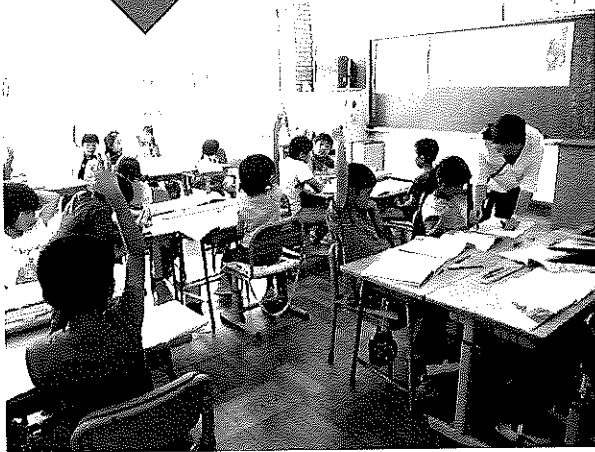
わたしの考えと似て  
いる！

他にも考えられると  
ころがあるかなあ。

みんなの考えの似ていると  
ころをほかにも探してみよう！

なるほど！

グループから全体へ



グループでの話し合いを通して、自分の考  
えを深めたり、考えに自信をもったりするこ  
とができた。始めは発表に消極的だった児童  
も、友達に一度聞いてもらったという安心感  
から、全体への発表に自信をもって取り組む  
ことができるようになっていった。

## 第5学年2組 国語科学習指導案

令和元年 12月 3日(火) 5校時  
於・5年2組教室 指導者 廣瀬一輝

- 1 単元名 宮沢賢治の作品を味わおう  
教材名 『雪わたり』

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

##### 1 【知識及び技能】

(1) オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

##### 2 【思考力、判断力、表現力】

##### C 読むこと

(1) イ 登場人物の相互の関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

『雪わたり』は、美しい雪の野原を背景に、宮沢賢治独特の比喩やオノマトペを駆使した表現、人間ときつねの心の交流が描かれた心温まる物語である。また、「キックキックトントン」や「ピッカリピッカリ」などの擬音・擬態語や歌によって、リズムカルに読むことができる文章でもある。本教材は、二つの場面で構成されている。その一の「お日様の輝く昼間」では、きつねに対する恐れや疑念をもっていた四郎とかん子であったが、子ぎつねの紺三郎との出会いをきっかけにして、歌のかけ合いが始まり、徐々に気持ちを許していく過程が描かれている。その二の「十五夜のお月様」では、幻灯会を通してさらに心を通わせていく様子を読み取れる。人間ときつねの間にあった心の距離が、最後はお互いにキラキラ涙をこぼして喜び合う程に理解し合い、そこに作者が物語に込めた想いを垣間見ることができる教材である。

児童はこれまでに、第4学年の『一つの花』や『ごんぎつね』の学習において、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、叙述を基に想像して読む学習をしてきている。そして『「読書発表会」をしよう』では、ブックトークの仕方を学び、テーマを決めて発表する学習をしてきている。また、第5学年の『大造じいさんとがん』の学習において、情景描写をもとに登場人物の心情を想像し、物語の山場や大造じいさんの気持ちの移り変わりについて読み深めた。

本単元では、「表現の効果を考える力」を付けるために、教材として『雪わたり』を取り上げる。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、比喩や反復など「どのように描かれているか」という表現面に着目させ、登場人物の様子や美しい自然について、より想像を膨らませながら読み進める。そして、物語に特徴的なリズムのある表現や、色、植物、鉱物が用いられている情景描写から、場面の様子や登場人物の心情について想像したことを宮沢賢治紹介ブックにまとめる。また、宮沢賢治の作品を並行読書することで、独特の感覚や魅力、作品に込められた作者の願いなどに気付かせていく。

(2) 児童の実態 21名(男子10名 女子11名)

(調査実施日 10月10日)

①物語文を読むときにどんなことに気を付けながら読んでいますか。(複数選択可)

・物語の山場	12名【57%】
・登場人物の心情	8名【38%】
・登場人物の相互関係	7名【33%】
・あらすじ	7名【33%】
・特に何も気にしていない	5名【24%】

②登場人物の気持ちを読み取るときに何を手がかりにしていますか。(複数回答可)

・情景描写	7名【33%】	・登場人物の行動	2名【10%】
・文章	5名【24%】	・挿し絵	2名【10%】
・会話文	3名【14%】	・未記入	1名【5%】
・気持ちを表す言葉	3名【14%】		

③文章を読んであらすじをまとめることができますか。

できる	どちらかといえば できる	どちらかといえば できない	まったくできない
3名【14%】	9名【43%】	9名【43%】	0名【0%】

④自分でまとめた考えを表現する方法は何が得意ですか。

話す	文章で書く	絵で表す
6名【29%】	9名【42%】	6名【29%】

⑤宮沢賢治の作品を知っていますか。

はい	いいえ
7名【33%】	14名【67%】

⑥どんな作品を知っていますか。

- ・銀河鉄道の夜【5人】      ・雪わたり【3人】      ・注文の多い料理店【2人】  
・セロ弾きのゴーシュ【1人】      ・双子の星【1人】

意識調査の結果から、多くの児童が山場や登場人物の心情に気を付けながら物語文を読んでいることがわかる。これは『大造じいさんとがん』の学習を通して、物語の山場に注目したり、情景描写から登場人物の心情を想像したりしたことで、特にこの2点に気を付けて読んでいると考えられる。しかし、中には物語を読むときに特に何も気にしていない児童や、気持ちを読み取る手がかりとして、ざっくりと「文章」と答えた児童もいる。また、物語の大体を捉え、あらすじを書くことができると答えた児童は約半数である。これまで、要約文やあらすじを書く学習をしてきているが、文字数に制限があるとまとめきれない児童が多くいた。自分の考えを表現する方法として、4割の児童が「文章」、3割の児童が「絵」で表すことが得意と答えていることから、宮沢賢治紹介ブックを作る際に自分が得意な方法が生かせるような手立てを講じる。また、宮沢賢治の作品を知っている児童は3割で、中には作品を5つ知っている児童もいるが、半数以上の児童が宮沢賢治の作品を知らない。

学級の実態として、9割の児童が読書が好きで、物語の登場人物の気持ちを想像するのが好きであると答えている。また半数以上が、自分の考えを話すのが好きと答え、ペアや少人数での話し合いは意欲的に行える。国語の学習に意欲的な児童も多く、わからない言葉や慣用句について辞書で調べたり、自主学習でまとめたりしている児童もいる。毎時間話し合いの場を設けたり、言葉をまとめている学習ノートを掲示したりするなど、学級の特性を生かしながら学習を進めていくことで、意欲化を図りたい。

前提・事前調査では、物語文のあらすじを把握できたのが6割、登場人物の心情を読み取る設問の正答率は4割だった。さらに登場人物の行動を読み取る設問は正答率が2割程度と低く、無回答が4名いた。心情と行動を読み取る設問については、指定された言葉を使い、制限された字数で書いたり、一文で書き抜いたりする条件があるものである。普段のテストでも記述式に弱く、全体的に正しく回答できない傾向がある。無回答の4名は、日常でも自分の考えをもったり、考えたことを言葉で表現したりすることが難しい児童である。

### (3) 仮説とのかかわりと主な手立て

#### 仮説1

「読むこと」の学習の場において、つきたい力を明確にし、指導過程や指導方法を工夫改善すれば、児童の読みの力を効果的に高めることができるであろう。

- ①導入では、ブックトークを開き、宮沢賢治が書いた本に興味をもたせる。単元を貫く言語活動を、宮沢賢治紹介ブックの作成とし、「①リズムある表現、②情景描写や比喩表現」の2つの表現の工夫を中心にまとめていく。宮沢賢治の作品を並行読書し、『雪わたり』と同様に、自分が選んだ物語で表現の工夫を読み取る。同じ作者の作品を読み、観点ごとにワークシートにまとめていくことで、より作者の世界観を知ることができると思う。
- ②「表現の効果を考える力」を付けるために、比喩や反復、情景描写に注目しながら場面の様子を丁寧に読み取る。3人の登場人物の性格がわかる部分に黒線、リズムのある表現に青線、比喩を使った情景描写に赤線を引き、心に残った表現や言葉と共に、ワークシートにまとめるときの補助とする。言葉の意味を理解しやすくするため、具体物の写真や絵本を提示し、視覚的な情報を多く得られるようにする。
- ③リズムある表現を味わわせるために、音読の仕方を工夫する。一人読みや黙読の他に、例えやオノマトペの部分抜いてダウト読みをしたり、歌のところを小集団で工夫して読んだりする。そうすることで、音読の楽しさを味わいながら作者の表現の特徴に気づき、作品をより深く味わうことができると思う。

#### 仮説2

授業において、生徒指導の機能を生かした学習指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、生き生きと学ぶであろう。

- ①自己決定の場を与える学習活動として、宮沢賢治紹介ブックの作成に必要な情報を児童と一緒に考え、学習計画を立てる。並行読書する本は、話の内容を全員が把握していた方が話し合いや交流の質が深まるため、宮沢賢治作品の特徴がわかりやすく、あらすじを捉えやすい5冊（「注文の多い料理店」「どんぐりと山猫」「虔十公園林」「セロ弾きのゴーシュ」「猫の事務所」）から選ぶようにする。
- ②自己存在感を与える学習活動として、毎時間小集団での話し合いの場を設ける。その際、司会を交代で担当し、一人一役の形でできるようにする。作った宮沢賢治紹介ブックは図書室に掲示す

ることを知らせ、相手意識をもたせて学習に取り組めるようにする。

- ③共感的人間関係を育成する場を与える学習活動として、話し合いの約束を守って小集団学習をする。同じ描写でも、感じ方や想像することは一人一人違ってよいことを理解し、友達のよさに気付けるように促していく。学習の最後に、宮沢賢治紹介ブックを読み合い、それぞれの物語の表現の工夫や特徴が伝わるように書かれているかに注目し、自分の考えと比べることができるようにする。

### 3 単元の目標

- ・比喩や反復などの優れた表現の工夫に気付くことができる。  
【(知識及び技能) 言葉の特徴や使い方に関する事項】
- ・比喩を使った情景描写や、登場人物の行動や気持ちなど、表現の工夫を読み取ることができる。  
【(思考力・判断力・表現力) 読むこと】
- ・表現の工夫に気付き、宮沢賢治の作品に親しもうとする。  
【(学びに向かう力、人間性等) 関心・意欲・態度】

### 4 学習指導計画(10時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準(評価の観点・評価方法) 【仮説との関わり】
第一次	1	○宮沢賢治の世界を伝える「宮沢賢治紹介ブック」について知り、学習計画を立てる。 ・ブックトークを聞き、宮沢賢治の作品への興味をもつ。	㊦宮沢賢治の作品を読むことや、宮沢賢治紹介ブック作りに興味・関心をもっている。 (発言・様子) 【仮説1-① 2-①】
第二次	1	○「雪わたり」を通読し、作品全体をつかむ。 ・新出漢字、難語句の意味、表現の特徴を理解する。	㊦四郎、かん子、紺三郎の言動に着目して物語の内容をつかみ、3人の関係をおさえながら読んでいる。 (発言・教材文・ノート)
	1	○四郎とかん子の、紺三郎に対する始めと終わりの気持ちの変化を捉える。 ・3人の性格がわかる部分に黒線を引き、それぞれの心情の変化を読み取る。	㊦登場人物の行動や気持ちを読み取り、3人の気持ちが大きく変化した様子を捉えている。 (発言・教材文・ノート) 【仮説1-①②, 2-②③】
	2	○音読を通して表現のおもしろさを感じ取る。 ・リズムのある表現に青線を引き、どんな様子か話し合う。 ○見つけた表現を、ペアやグループで工夫しながら音読する。	㊦比喩や反復などの優れた表現の工夫に気付くことができる。 (発言・教材文) ㊦例えを使った情景描写が多く使われていることに気付き、表現の工

	2 (本時7/10)	<p>○比喻を使った情景描写を見つける。 ・情景描写に赤線を引き、印象的な情景描写を抜き出す。</p> <p>○比喻の効果を読み取る。(本時) ・比喻が使われている文を読み、表現の工夫について考える。</p>	<p>夫を読み取っている。 (発言・教材文) 【仮説1-①②③, 2-②③】</p>
第三次	2	<p>○自分が選んだ作品を読む。 ・表現の工夫について読み取り、ワークシートにまとめる。</p> <p>○印象に残った情景描写や比喻表現、リズムある表現について、根拠をはっきりさせて伝え合う。</p>	<p>㊦人物の相互関係、心情の変化や表現の工夫を探りながら、自分が選んだ作品を読んでいる。 (様子・紹介ブック) 【仮説1-①②, 2-①】</p>
	1	<p>○他の宮沢賢治の作品を読み、表現の工夫や特徴について話し合う。</p>	

第5学年2組授業実践

1. 単元名 宮沢賢治の作品を味わおう

『雪わたり』

2. 身に付けさせたい力

表現の効果を考える力

3. 仮説検証のための手立て

仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

<手立て①>

宮沢賢治の本に興味をもたせるブックトーク

ブックトークで紹介した順番

1. 銀河鉄道の夜
2. (作者, 宮沢賢治について)
3. ふたごの星
4. よだかの星
5. 猫の事務所
6. どんぐりと山猫
7. 風の又三郎
8. やまなし
9. 度十公園林

さそり  
星  
いじめ  
猫  
一郎  
不思議  
生と死

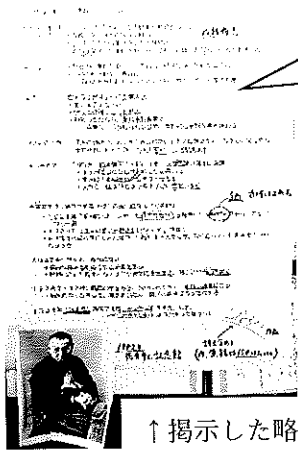


児童のアンケートから、宮沢賢治の作品で最も知られているのが「銀河鉄道の夜」だったので、BGMやドラえもん映画を切り口に、始めに紹介した。宮沢賢治の作品には、登場人物の「猫」「一郎」や、「弱い者いじめ」「格差」がテーマになっているもの、比喩表現に鉱物が用いられている等、共通点が多い。その共通点をしりとり keyword の要領でつないで、上記の8冊を紹介した。

しりとりキーワード

- ・さそり
- ・星
- ・いじめ
- ・猫
- ・一郎
- ・不思議
- ・生と死

作者について、聞いたことはあるが詳しくはわからない児童がほとんどだったので、簡単な略歴をもとに紹介した。



ブックトーク後、児童から「あだ名がつくくらい石集めが好きだと初めて知った」「最期まで作品を書き続けていてすごい」等の感想があった。

単元後半で、「なぜ宮沢賢治の作品には石の表現が多いのか」という疑問が出たときに、この略歴に振り返って考えることができた。





## <手立て④>

### 物語の大体をつかませる

物語の大体を捉えるというねらいから、登場する3人の性格を考える時間を設けた。考えの根拠がわかるようにサイドラインを引かせ、読み取った3人の性格をもとに、相関図を書かせた。

#### ワークシート①

②登場人物の関係性

書くことに抵抗のある児童も、3人の性格を全体で共有し、板書したことでワークシートに書くことができた。

③登場人物の関係性

登場人物の言動や様子からそれぞれの思いを想像し、自分の言葉でまとめている。また、自分が考えた関係性と、友達の意見を分けて記録している。

④登場人物の関係性

⑤登場人物の関係性

⑥登場人物の関係性

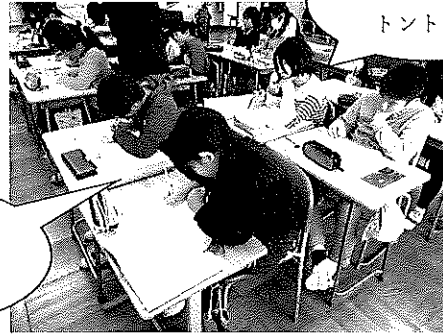
人物相関図にまとめたことで、始めは紺三郎を警戒していた兄妹が、徐々に心を開いていく過程を読み取りやすくなった。これまでの物語文の単元の学習を生かし、多くの児童が自分なりに工夫しながらまとめることができた。このワークシートに振り返ることで、3人の関係性を考える際の一助となった。

## <手立て⑤>

### 学習の流れの統一化

繰り返しの言葉や音の表現に着目させ、作者の表現の工夫を読み取りやすくするために、色分けしてサイドラインを引くようにした。また、サイドラインを引く、一つ例をとって全体で考える、個人でワークシートにまとめる、全体で共有するという学習の流れを統一し、見通しをもって学習に取り組めるようにした。

- 3人の登場人物の性格がわかる部分に黒線
- リズムのある表現に青線
- 比喩を使った情景描写に赤線



キックキック  
トントン…

五音七音の  
ところは…

### ◇リズムのある表現を見つけさせる

まず、全員で『キックキックトントン』の表現から想像できることを話し合った。

- ・積もっている雪を、けり飛ばしている感じ
- ・ウキウキしながらおどっているように思った
- ・楽しすぎてスキップをしている
- ・近くに「足ぶみ」と書いてあったので、楽しい、気持ちいい感じがする

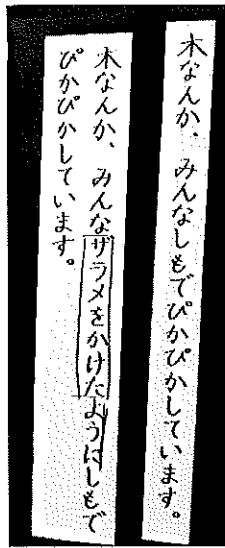
このように、同じ表現から様々な情景を思い浮かべ、全体で共有してから個人の読み取りを進めることができた。

同じ『キックキックトントン』の表現でも、場面によって感じ方が違っている。句読点の有無によってリズムが生まれることを理解したり、登場人物の心情を深く考えたりするなど、さらに細かな場面の様子を思い浮かべていることがわかる。

PS1 L11	044 L4	046 L9	PS2 P10,11	ページ 11
キックキックトントン	キックキックトントン	足踏ロカン	キックキックトントン	リズムのある表現
トントン	トントン	生徒はそわまふい	トントン	
トントン	トントン	んとまの心を通じ合っている?	トントン	思ったこと
トントン	トントン	楽しすぎてスキップしている?	トントン	
トントン	トントン	久し振りに遊べてうれしい	トントン	
トントン	トントン	こんなことが起るのだろうか	トントン	



◇ 比喩を使った情景描写を見つけさせる



全員で『ザラメをかけたように』の比喩表現の有無を読み比べ、受ける印象の違いを話し合った。

- ・ 光が反射してキラキラ光っているよう
- ・ おいしそう、光ってきれい
- ・ みとれる
- ・ おかしのトッピングみたいにかかっている感じ
- ・ 氷を削った後の切れはしみたい

リズムある表現の時と同じように、様々な情景を思い浮かべ、全体で共有してから個人の読み取りを進めることができた。

ワークシート③

p.44 L.1 『雪がすっかりこおって大理石よりもかたくなり…』を抜き出した児童

ページ 行数	本文	ページ 行数	本文	ページ 行数	本文	ページ 行数	本文
P44 L1	雪が	P44 L1	雪が	P44 L2	雪が	P44 L2	雪が
	たとえを使った情景描写		たとえを使った情景描写		たとえを使った情景描写		たとえを使った情景描写
	感じたことや思ったこと		感じたことや思ったこと		感じたことや思ったこと		感じたことや思ったこと

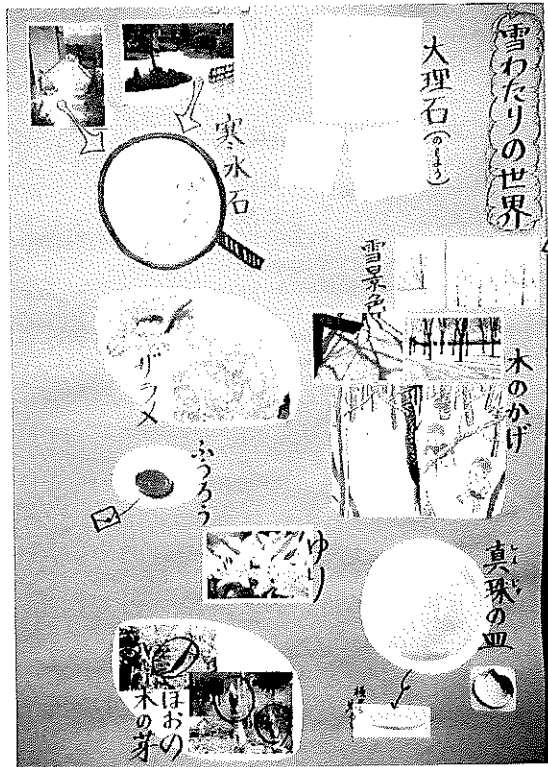




## <手立て⑥>

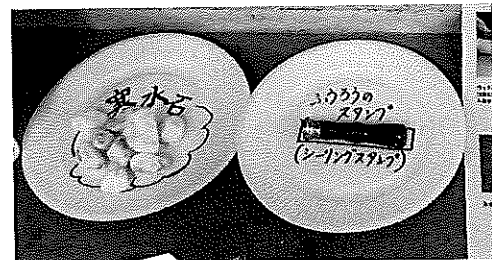
### 言語環境の充実

児童がより物語の世界に浸りやすく、形や色、景色等といった情景が思い浮かびやすくするために、視覚に訴える言語環境を整えた。



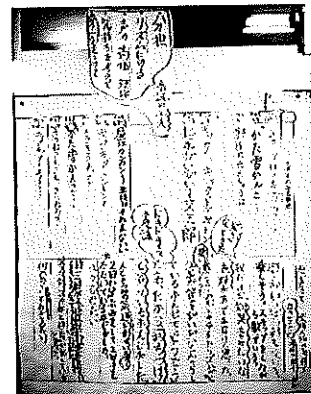
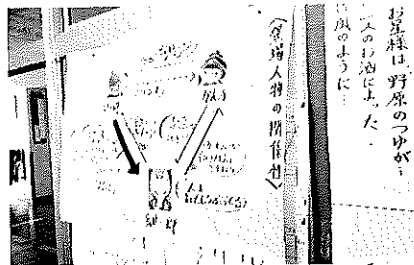
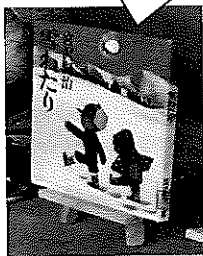
ガラメのせんべい

文中の具体物や情景をすぐ確認できるように、写真や絵本の挿絵を教室に掲示した。



寒水石(左)とふうろうのスタンプ

何種類か絵本を提示し、場面の様子をイメージしやすくした。



前時の振り返りでは、児童のワークシートと同じ掲示物を壁面に用意し活用した。

具体物や写真を掲示することで、場面の様子をイメージしやすくなった。比喩表現について、さらに自分で見つけようとする姿が見られた。また、子ども自ら書いたものも掲示したことで、意欲的に学習することができた。

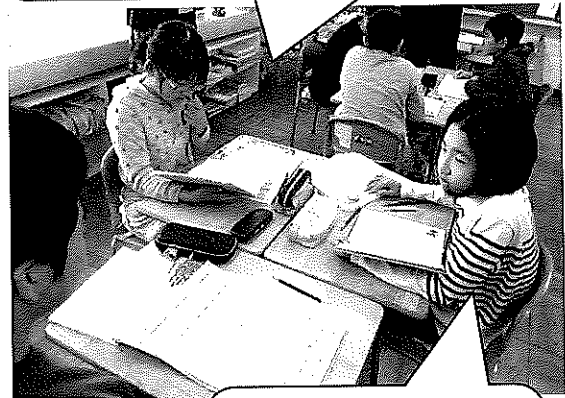
## <手立て⑦>

### 音読の工夫

リズムある表現を味わうことができるように、音読の仕方を工夫した。毎時間の導入で、以下のような方法で音読する機会を設けた。

- 一人読み
- 黙読
- 歌のところを小グループで工夫して読む
- オノマトペの部分抜いてダウト読み

ここは〇〇ちゃんが読んで、こっちは3人で読もう。



「キックキックトントン」のところは足踏みしてみない？

**ダウト読み**  
話し手が教科書の文を、所々変えて読む。聞き手はそれを聞き、間違いに気付いたら大きな声で「ダウト」と叫ぶ。始めは教師対子どもで、慣れてきたらペアやグループで行っていく。ゲーム感覚で楽しみながら音読し、物語の内容を覚えることができる。

ダウト読みでは、音読の苦手な児童がクイズ感覚で楽しみながら活動することができた。また、意図的に言葉を変えたり抜いたりしたことで、児童の意識を情景描写や比喻表現に向けることができた。

キックキックトントン	去年、三十八	よ、てりゅうりゅう	野原のまんじゅう	しみぎしん	キックキックトントン
全員	全員	全員	全員	全員	全員
2回読み	2回読み	2回読み	2回読み	2回読み	2回読み

リズムある表現を抜き出し、想像したことを小グループや全体で十分共有した後、読む分担を決めたり、身振りを考えたりする等、グループで話し合っ工夫を考えた。リズムに乗って、楽しく音読できた。(第4時)



リズムある表現を音読した時の感想

友達と手拍子や足踏みを入れながらリズムよく読んだ。他の班のよさにも気付いている。

リズムある表現を音読した時の感想  
 友達と手拍子や足踏みを入れながらリズムよく読んだ。他の班のよさにも気付いている。

実際に友達とリズムをつけて読むことを通して、登場人物の様子や気持ちを想像することができた。

実際に友達とリズムをつけて読むことを通して、登場人物の様子や気持ちを想像することができた。

各班の発表を聞き、共通点を考えた。また、作者についての感想をもつことができた。

各班の発表を聞き、共通点を考えた。また、作者についての感想をもつことができた。

1行ずつ読む分担当を変えながら、工夫して読むことができた。

1行ずつ読む分担当を変えながら、工夫して読むことができた。

ワークシート②でも触れたように、前時に見つけたリズムある表現をもとに、小グループで工夫して読む練習をし、発表し合った。身振り手振りをつけたり、声の強弱やリズムを変えたりするなど、グループによって様々な工夫が見られた。なかなか工夫が思いつかないグループにはアイデアを例示してあげるなどアドバイスをした。児童の感想を読むと、表現のおもしろさを概ね味わうことができたと思われる。

## 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

### <手立て①>

#### 宮沢賢治紹介ブックの作成に必要な情報を見童と一緒に考え、 学習計画を立てる

これまでの学習をもとに、学習計画を見童と一緒に考え、見通しをもって取り組めるように掲示した。物語の特徴を問うと、「歌」と「例えること」と答えた。この2つを中心に、ワークシートに読み取ったり考えたりしたことをまとめながら、最後に1冊の本としてまとめることを確認した。

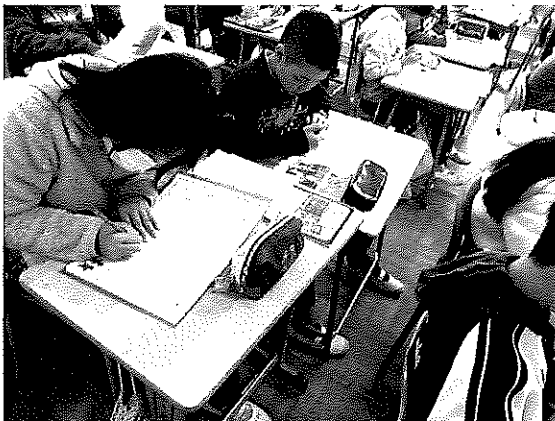
7	6	5 <sup>000</sup>	4 <sup>000</sup>	3	2	1
表現の工夫について伝え合おう。	自分が選んだ物語を読み、表現の工夫についてまとめよう。	たとえを使った情景描写を見つけて、表現の工夫について考えよう。	表現のおもしろさを味わおう。	登場人物の性格を読み取ろう。	リズムある表現を見つけて、表現のおもしろさを味わおう。	ブックトークを聞き、宮沢賢治の作品や作者について知ろう。 物語を読んで、表現の持ちようを知り、学習計画を立てよう。

★雪わたり<sup>★</sup>  
〈学習計画〉

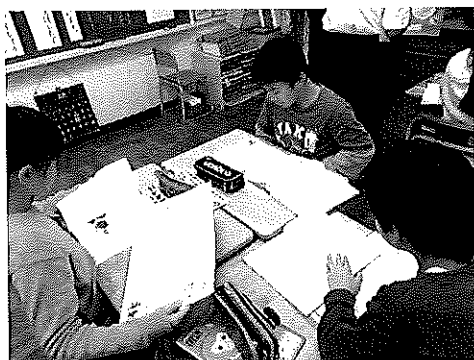
### <手立て②>

#### 小グループでの話し合いの場の設定

- ①赤線を引いたところをもとに、印象的な比喩表現を選び、感じたことや思ったことを各自まとめる。



②感じたことや思ったことを、少人数グループで伝え合う。

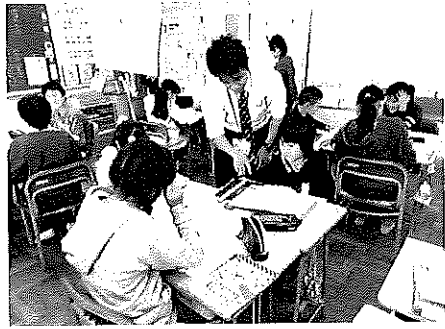


児童のワークシート (第5・6時)

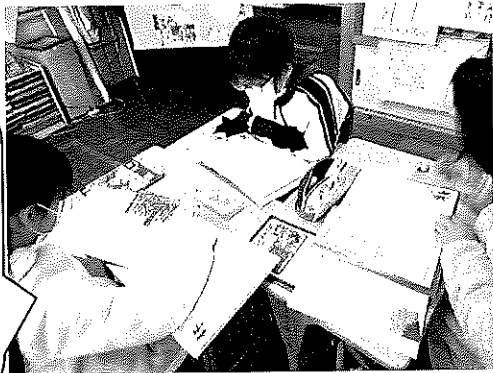
118	たどえを使った情景描写	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
119	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
120	木なんか...	木なんか...	木なんか...
121	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
122	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
123	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
124	木なんか...	木なんか...	木なんか...
125	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
126	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
127	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
128	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
129	木なんか...	木なんか...	木なんか...
130	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
131	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
132	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
133	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
134	木なんか...	木なんか...	木なんか...
135	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
136	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
137	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
138	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
139	木なんか...	木なんか...	木なんか...
140	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
141	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
142	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
143	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
144	木なんか...	木なんか...	木なんか...
145	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
146	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
147	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
148	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
149	木なんか...	木なんか...	木なんか...
150	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
151	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
152	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
153	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
154	木なんか...	木なんか...	木なんか...
155	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
156	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
157	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
158	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
159	木なんか...	木なんか...	木なんか...
160	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
161	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
162	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
163	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
164	木なんか...	木なんか...	木なんか...
165	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
166	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
167	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
168	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
169	木なんか...	木なんか...	木なんか...
170	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
171	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
172	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
173	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
174	木なんか...	木なんか...	木なんか...
175	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
176	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
177	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
178	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
179	木なんか...	木なんか...	木なんか...
180	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
181	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
182	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
183	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
184	木なんか...	木なんか...	木なんか...
185	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
186	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
187	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
188	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
189	木なんか...	木なんか...	木なんか...
190	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
191	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
192	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
193	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
194	木なんか...	木なんか...	木なんか...
195	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...
196	平らなことは...	平らなことは...	平らなことは...
197	大きな木は...	大きな木は...	大きな木は...
198	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...	雪がすかりおいて...
199	木なんか...	木なんか...	木なんか...
200	お日様が真白に...	お日様が真白に...	お日様が真白に...

同じ情景描写から、様々な感じ方や膨らむイメージがあり、机間指導で認めていった。

伝え合う際には、リズムのある表現の時と同様、必ず自分の考えの根拠となる文とセットで話すように指導した。

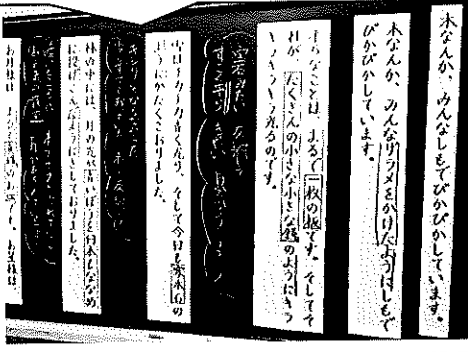
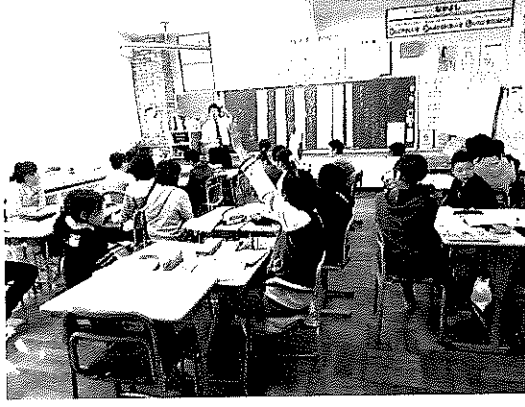


「私は〇ページ〇行目の～というところから、～と思いました。」という言い方を意識させて話し合った。



③全体で共有し、話し合う。

発表内容を整理して板書し、視覚化したことで、表現の工夫を捉えやすくした。



自分と違う考えや似た考えに触れることによって、自分の考えを深めたり広げたりできるように意識させた。小グループを編成したことで、自分の考えを全員が伝えることができた。

### <手立て③>

## 毎時間の授業の振り返り

授業の振り返りを毎時間行った。教師の朱書きを毎回必ず入れ、認めたり励ましたりするように心がけた。

7	6	5-2	5-1	4-2	4-1	3	2-1
<p>表現の下に、ついでに、その後の、</p>	<p>自分の考え、</p>	<p>友達のことを、</p>	<p>友達のことを、</p>	<p>友達のことを、</p>	<p>友達のことを、</p>	<p>友達のことを、</p>	<p>友達のことを、</p>

今回は、リズムのある表現のおもしろさを、友達に伝えたいと思った。友達に伝えたいと思った。友達に伝えたいと思った。

元氣よく、ハスハスと言った。友達に伝えたいと思った。友達に伝えたいと思った。友達に伝えたいと思った。

始めの頃は「色々な意見」「色々なこと」等、曖昧な表現を用いて感想を書いていた児童も、教師の朱書きで認めたり励ましたりしたことで、徐々に具体的な言葉で書けるようになっていった。また、学習課題に沿った内容を書いたり、次時のめあてを書いたりできる児童も増えていった。

さらに、小グループでの交流を積み重ねるにつれ、友達の感じ方に共感でき、友達のよさを見付けることができる児童の姿も見られた。

## <手立て④>

### 共感的人間関係を育成する学習活動

話し合いのきまりとして・・・

- ①話し手の方を見て、最後まで聞く。
- ②聞き手はリアクションをする。

「聞き上手のあいうえお」



「ああ！」(共感)

「いいね！」(肯定)

「うん」(うなずき, 共感) 「うん？」(聞き返し)

「ええ！」(驚き)

「おお！」(感嘆)



本時だけではなく、毎時間の話し合いの際には、聞き上手を褒めるように心掛けた。同じ描写から、感じ方や想像することは一人一人違ってよいという認め合う雰囲気、徐々にできていった。「友達のよさに気付けた」と、授業後の感想にまとめる児童が出るようになった。

個人での読み取り、小グループでの意見交流、全体での共有の流れで毎時間学習したことで、見通しをもって取り組むことができ、スムーズに話し合うことができるようになっていった。しかしながら、児童の話し合いを聞いていると、「そうなんだ」「私もそう思う」「僕と似ている」などと共感はできているが、頭の中にその情景がどれだけ鮮明に、具体的に描かれているかは計り知れなかった。全体で共有する時に、教師が言葉や具体物を補うことで、ようやくイメージしやすくなったと答える児童もいた。より想像豊かに読み取ることができるように、小集団の話し合いの際には、「それって～ということだよね？」「それは〇〇みたいじゃない？」などと聞き返したり深く考えたりしながら、お互いの考えを聞き合うような話し合いのもち方が課題である。

後半は、自分が選んだ物語で2つの表現の工夫についてまとめさせたが、言葉を探すことに夢中になり、物語の大体を捉えて味わうことが疎かになってしまった。



## (2) 研究仮説について

### 仮説1

「読むこと」の学習の場において、付けたい力を明確にし、指導過程や指導方法を工夫改善すれば、児童の読みの力を効果的に高めることができるであろう。

- 付けたい力や単元のゴールを明確にし、それに見合った言語活動を選んで取り入れていくことで、児童が目的意識をもち、主体的に取り組むことができた。
- ワークシートの活用や視覚的に訴える教材の工夫により、児童の想像力が広がり、読みの力を高めることにつながった。
- 音読の仕方を工夫したことで、児童が楽しく取り組むことができた。継続して取り組むことで、リズムある表現を味わったり、物語の内容を深く読み取ったりすることにつながった。
- 付けたい力に合致する言語活動を何にするかを選ぶことや、学んだことを生かすために読む並行読書の選定が難しかった。また、リーフレット等の作成に時間がかかってしまった。

### 仮説2

授業において、生徒指導の機能を生かした学習指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、生き生きと学ぶであろう。

- 「自己決定の場を与える」手立てとして、学習計画を児童と一緒に立てることで児童の興味・関心を喚起したり、毎時間の学習の流れを統一化し、見通しをもてるようにしたりしたことで主体的に学習に取り組むことができた。
- 「自己存在感を与える」手立てとして、児童の発言やつぶやきを称賛したり認めたりしたこと、児童のノートにこまめにコメントを入れたりしたことで、児童が意欲的に教材と関わったり、自信をもって発言したりする姿が見られた。
- 「共感的人間関係を育成する」手立てとして、話し手の顔を見ながら聞くことなど学習規律の徹底を図り、安心した学習環境づくりに取り組んだことで、友達の考えを認めながら学び合うことができた。
- グループでの話し合い活動を授業の中に組み込むことで、児童一人一人が必ず発言する機会が与えられるが、内容についてはまだ十分ではない。ただ意見を述べ合うだけでなく、友達の考えに対して自分の考えを比べて深めていけるような手立てを講じていく必要がある。

### <今後の取り組み>

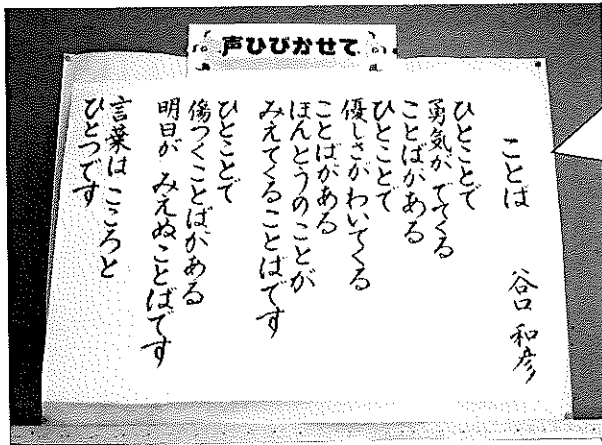
- ・語彙力アップは日々の生活の中からも取り入れることができる。学習としてだけではなく、しりとりやカルタ遊びなど、子ども達が楽しみながら取り組める言葉遊びを積極的に取り入れていきたい。
- ・学習コーナーの取り組みも、児童の興味を引き付ける1つの手立てとなったが、更新する期間や内容を工夫しながら実践していきたい。
- ・今年度は物語文を中心に実践を行ってきたが、今後は説明文でも指導の工夫を考え、実践していきたい。

# 資料編



## <言語環境の整備・語彙力を付けるための取り組み>

### ○詩の音読・暗唱



季節感のあるものやリズムよく楽しく音読できるものなど、児童の発達段階に応じた詩を選び、教室背面に掲示する。

(1カ月に1編程度)

朝の会や授業の中で友達と声を合わせながら読むことで、言葉の響きやリズムを味わわせていく。また、音読カードにも貼り、家でも練習できるようにする。



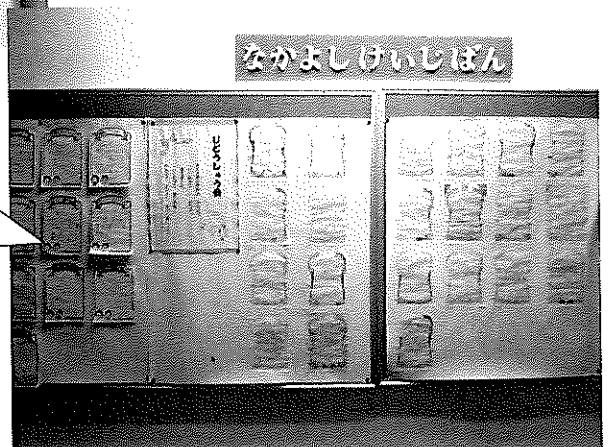
### <季節の詩>

季節に合わせた詩を選び、廊下に掲示する。詩は1年生でもわかるような、簡単なものを選ぶ。

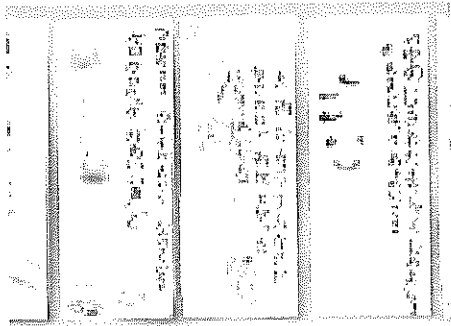
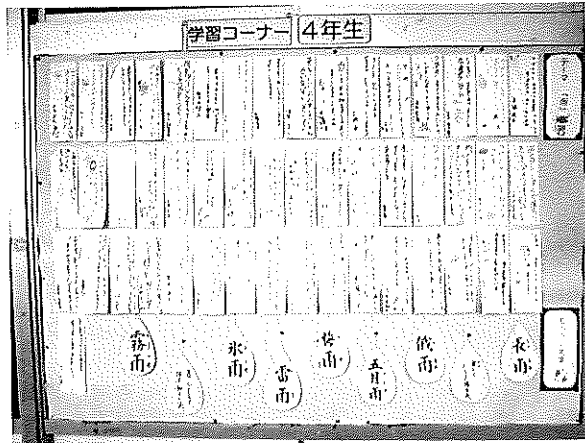


### ○なかよし掲示

行事や活動があったときに、ミニ作文として、楽しかったことや感じたことを書き、廊下に掲示する。また、一人一人に向けた担任からの朱書きのコメントを入れる。







#### 4年生

##### 「短歌づくり」「言葉カード」

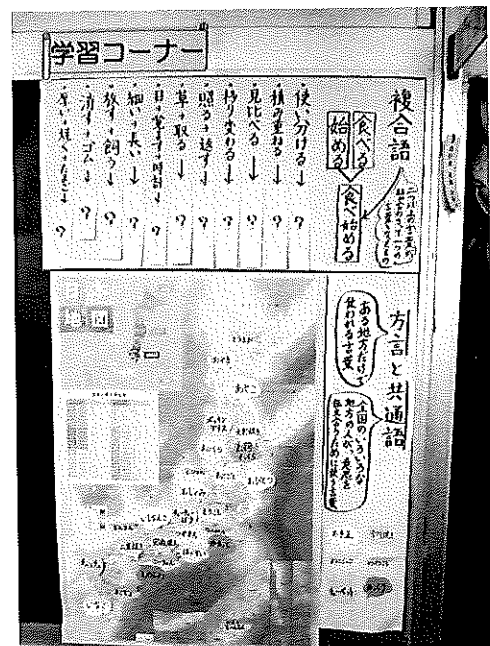
季節やテーマに沿った短歌づくりを通して、言葉のリズムの良さを感じたり、つくる楽しさを味わわせたりする。

言葉カードは、普段あまり使わない言葉を選んで裏に意味を書いたり、難読漢字の読みを裏に書いたりし、めくって確かめることで、楽しみながら語彙力を高める。



短歌作りを何度か行うことで、初めは五・七・五・七・七のリズムを使って作れなかった児童も、できるようになった。

また、言葉カードもクイズ感覚でめくりながら、楽しく取り組む姿が見られた。



#### 5年生

##### 「複合語」「方言と共通語」

クイズ形式にして掲示したり、地図と照らし合わせながら方言を示したりすることで、児童の興味・関心を高めさせる。



学習内容に合わせ、クイズ形式にして掲示したことで、子ども達は「？」カードをめくったり、地図の場所と方言を確かめたりしながら活用していた。

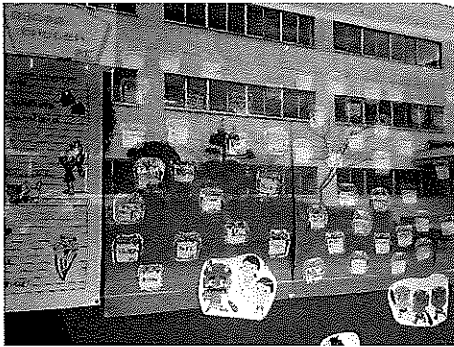
○階段掲示



児童が毎日、様々な言葉を目に触れることで自然に言葉を身に付けていけるように、階段のステップに言葉に関する掲示をする。

(十二支・月の言い方・春の七草・秋の七草・ことわざ・慣用句)

○外掲示板



低・中・高ごとに、年間2回ずつ外掲示板に児童の思いを掲示する。

(運動会がんばるぞ！・七夕の願い事・心の鬼たいじなど)

○言葉コレクション



しわざ	めぐも	あわわ	つなう	言葉コレクション	顔が売れる	顔がつかぬ	顔がき	顔が広い	言葉コレクション
行い	自分やあやまらぬことを	物をお金や	かわいさうな	名	信用があまり	お金のすい	お金のすい	お金のすい	名
すまねた	ねら	つみき	食物	名	あは顔(広)	あは顔(広)	あは顔(広)	あは顔(広)	名
なすね	だ				あは顔(広)	あは顔(広)	あは顔(広)	あは顔(広)	

学習の内容に合わせて、文章中に出てくる言葉を選んで授業の時間の初めに取り組む。また、慣用句やことわざなどでも行い、語彙力アップを図る。

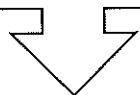
## <読書環境の充実>

〔東小児童の現状〕

- 読書を好きと答えた児童は8割。
- 図書室が3階にあり、教室が1階にある1・2年生が気軽に図書室へ行けない。
- 読書の内容に偏りがある。（図鑑やひみつシリーズを選ぶ子が多い。）



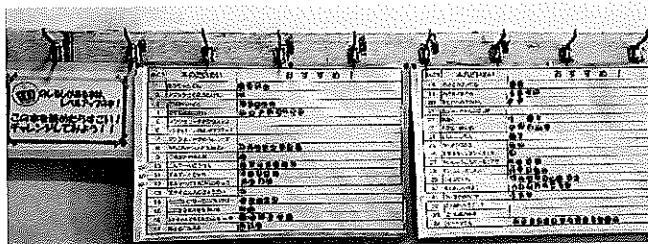
- ① 読書意欲を高める。
- ② 読む本の質的・量的な充実を図る。



- ◎文字を読むことの習慣化を図り、活字や文章に対する抵抗感をなくす。
  - ◎文章を読み、話の想像を膨らませる力を育む。
  - ◎読書量を充実させることで、語彙力・文章理解力を高める。
- 低学年：語彙力の確保 → 中高学年：文章理解力の向上

### 1. 東小ミニ図書館

いつでも本を手にとって読むことができるよう、各学年50冊程度の本を教室前の廊下に設置した。本の種類や冊数を確保するために、市立図書館の「読み物パック」を利用した。児童の発達段階に応じた本、図書室にはない本などを置いたことで、いろいろな本に興味をもち、読書しようとする児童が増えた。



本の一覧表を掲示して、どんな本があるのかわかりやすくした。

読み終わったら、3段階の色シールを「おすすめ度」によって貼ることで、子どもたちの意欲が高まり、他者への読書の意欲付けにもつながるようにした。

## 2. 読書貯金

今年度は読書貯金を行う期間を決めて、全校児童で取り組むようにした。各学年の目標冊数やページ数を設定することで、目標をもって取り組めるようにした。



### < 1・2年生 >

学年	冊数	ページ数	読書(本の題名)	達成率
1/5	1/5	1/5	あやしいおとこ	0.00
1/10	1/10	1/10	あやしいおとこ	0.00
1/15	1/15	1/15	あやしいおとこ	0.00
1/20	1/20	1/20	あやしいおとこ	0.00
1/25	1/25	1/25	あやしいおとこ	0.00
1/30	1/30	1/30	あやしいおとこ	0.00
1/35	1/35	1/35	あやしいおとこ	0.00
1/40	1/40	1/40	あやしいおとこ	0.00
1/45	1/45	1/45	あやしいおとこ	0.00
1/50	1/50	1/50	あやしいおとこ	0.00

本の冊数を貯める。  
↓  
読書の量的向上を図る。

ページ数をためる。  
↓  
読書の質的向上を図る。

### < 3～6年生 >

学年	冊数	ページ数	読書(本の題名)	達成率
3/5	3/5	3/5	あやしいおとこ	0.00
3/10	3/10	3/10	あやしいおとこ	0.00
3/15	3/15	3/15	あやしいおとこ	0.00
3/20	3/20	3/20	あやしいおとこ	0.00
3/25	3/25	3/25	あやしいおとこ	0.00
3/30	3/30	3/30	あやしいおとこ	0.00
3/35	3/35	3/35	あやしいおとこ	0.00
3/40	3/40	3/40	あやしいおとこ	0.00
3/45	3/45	3/45	あやしいおとこ	0.00
3/50	3/50	3/50	あやしいおとこ	0.00

## 3. 先生方による読み聞かせ

読書週間を利用し、「朝の読書」時間を使って、担任や担任以外の先生による読み聞かせを行った。先生方の本に興味をもち、図書室に探しに行く児童が増えた。

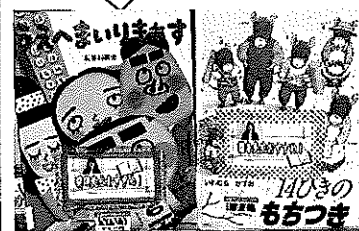


## 4. 先生おすすめの本の掲示

一年間図書室に掲示することで、興味をもって本を読もうとする児童が増えた。



紹介された本にミニカードを貼ることで、どの先生のおすすめの本なのか見てわかるようにした。



5. 児童おすすめの本の掲示

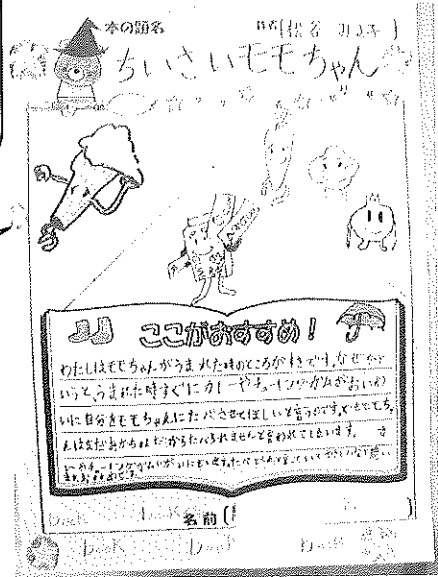
学年に応じた本を読めるようにするため、本の選定を行って学級ごとに配付し、読書の質の向上につながるようにした。読んだ本のおすすめカード全学級廊下に掲示することで、友達がどんな本を読んでいるのかを知ることができるようにした。自分が読みたい本だけではなく、あまり手に取ることのなかった本を読む機会を与えることで、様々な種類の本に興味をもてるようにした。

< 3年生児童 >

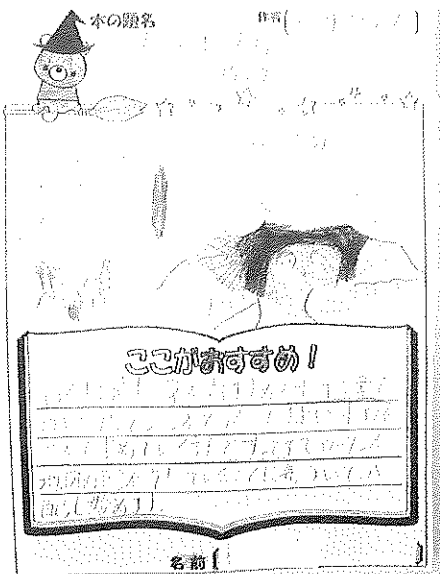


文字の小さい本や厚い本は難しそうであまり読むことがなかったけど、読んでみると結構おもしろかった。

初めて読んだ本だけど、おもしろかったので、モモちゃんシリーズをいろいろ読んでみたくなった。

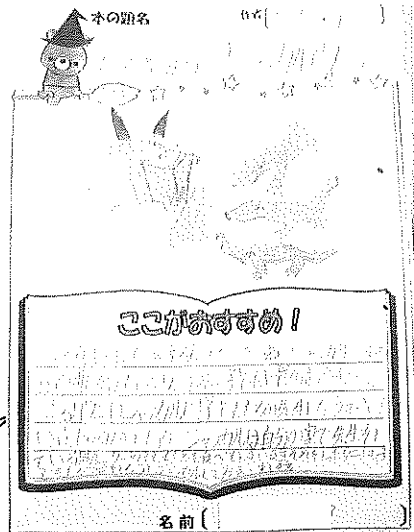


< 5年生児童 >



文字が小さくて文章が長いので、最後まで読めるか不安だったけど、冒険の内容がおもしろくてずっと読んでいられた。他のシリーズも読んでみたい。

外国の昔話は難しそうだと思っていたけど、読んでみるとおもしろい話がたくさんあった。



## 第1学年1組授業実践

1. 単元名 たのしく よんで、本を しょうかいしよう。  
『りすのわすれもの』

### 2. 身に付けさせたい力

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える力

### 3. 仮説検証のための手立て

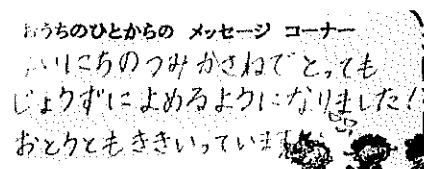
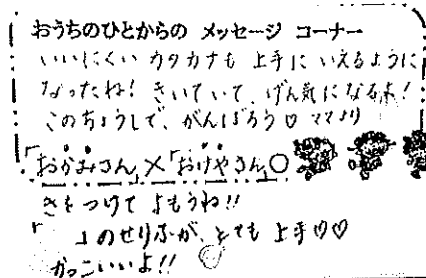
#### 仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

<手立て>

- ・単元を貫く言語活動を『おはなしどうぶつえん』をつくらせて、本をしょうかいしようとし、動物が登場人物となる本を読み、そのおもしろさを伝える活動をした。
- ・音読の充実や意欲向上に向け、保護者の日々のサインや時々記入できる一言メッセージ欄を設けた。
- ・挿絵の読み取りや動作化を取り入れたり、登場人物の行動に線を引いたりして、物語全体の内容を理解できるようにした。

<成果>

- ・保護者の一言メッセージ欄に、励ましや称賛、努力点等を記載してもらうことで、音読の意欲向上につながり、楽しく取り組めるようになってきた。
- ・動作化は内容把握にとっても効果的であった。



<音読カードの保護者記入欄>

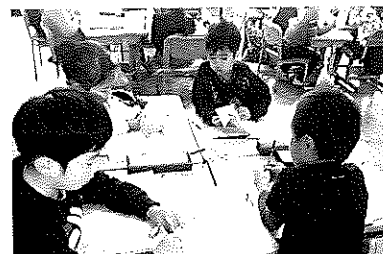
#### 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

<手立て>

- ・並行読書してきた何冊かの本の中から、おはなしどうぶつえんで紹介する本を選ぶようにした。
- ・常時掲示物の発表の仕方、話の聞き方のルールを意識して学習に取り組めるようにした。
- ・3～4人グループでの話し合い活動を設定し、全員が自分の考えや意見を述べるようにした。

<成果>

- ・発表の仕方、話の聞き方の掲示物を積極的に活用したことは、国語科だけでなく、全ての教科で生かされるようになってきている。
- ・全体に向けて発表することに抵抗を感じている児童がいたが、まずグループで考えや意見を述べる機会を設けたことで、自分の考えに自信をもち、全体でも発表してみようといった意欲の向上が見られた。



<グループでの話し合い>

### 4. 今後の課題

- ・ひらがなを習得してから、たちまち教科書本文の量がグッと増していく中、どのようにして場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える力を身に付けさせるかは、引き続き研修が必要である。確実に文字を読める力の育成に向け、音読のマンネリ化にならないような手立てをとり、日々取り組めるようにしていく。



### 第3学年1組授業実践

1. 単元名 物語のすきなところをしょうかいしよう  
『おすれられないおくりもの』

#### 2. 身につけさせたい力

登場人物の気持ちや変化、性格や情景などを踏まえた文章を読み取る力

#### 3. 仮説検証のための手立て

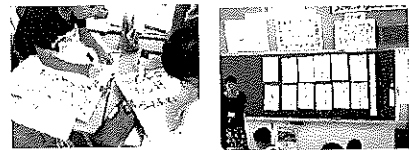
##### 仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

〈手立て〉

- ・教師や図書館司書、図書担当が勧める物語文の並行読書で単元の興味を持続させた。
- ・毎時間、一行や二行などの「音読」を取り入れることで、すらすらと文章を読めるようにした。
- ・自分の考えを書いたり、発表したりする際には、根拠となる部分を意識しながら言えるようにした。

〈成果〉

- ・今まで絵がたくさん入っていた本や図鑑を読んでいた児童が、並行読書をすることで長文を読めるようになった。
- ・音読をする行を増やしながらかえり返し行うことで、すらすらと読める児童が増えた。
- ・根拠となる部分をホワイトボードに書き出すことができた。



〈根拠をボードに書く〉 〈各班から出された意見〉

##### 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

〈手立て〉

- ・自己決定の場を与える活動の場として並行読書した本の中から自分で選んだ一冊を2年生に紹介させた。
- ・自己存在感を与える活動の工夫としてたくさん称賛し、自信をもたせた。
- ・共感的人間関係を育てるために、どんな意見に対してもうなずきや相づち、拍手等で応えるようにした。

〈成果〉

- ・一人5冊以上の読書を行い、その中から自分が好きな部分を紹介したい本を選んだ。当日は自信をもって2年生に発表できた。
- ・自分の考えや答えを自信をもって答えられるようになってきた。



〈2年生への本の紹介〉

#### 4. 今後の課題

- ・絵が多い読み物ではなく、学年相応の読書を行い、長文に慣れさせる必要がある。
- ・ことわざや慣用語、漢詩や回文などを積極的に取り入れ、語彙力を身に付ける必要がある。

## 第4学年2組授業実践

### 1. 単元名 心に一番ひびいた文を伝えよう 『一つの花』

### 2. 身に付けさせたい力

登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉える力

### 3. 仮説検証のための手立て

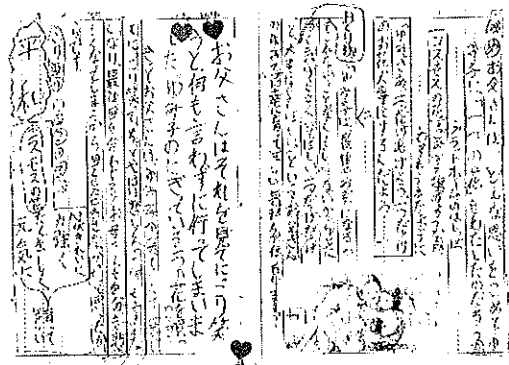
#### 仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

<手立て>

- ・単元を貫く言語活動を「読書ポスター」とし、「心に一番ひびいた文」「その文を選んだ理由」「おすすめの言葉」「登場人物や時・場所」について紹介した。
- ・大切な言葉や登場人物の気持ちが読み取れる文や言葉を見つける活動において、お父さんの気持ちがわかる表現には青線、お母さんの気持ちがわかる表現には赤線を引かせ、読みの手がかりとした。
- ・ノートは毎時間見開き1ページとし、気持ちが読み取れる文から考えたことをノートに書く活動を時間を十分にとって行った。

<成果>

- ・色別のサイドラインを引くことで、誰の思いがわかる文章なのかがはっきりとし、心情を読み取る上での手がかりとなった。
- ・自分の考えを書く時間を確保したことで、しっかりと書き表すことができた。



<児童のノート>

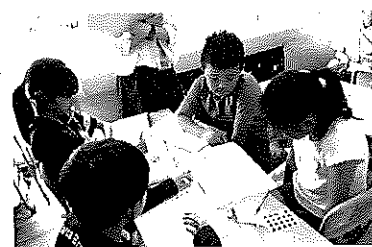
#### 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

<手立て>

- ・並行読書をしてきた本の中から「心に残った1冊」を選ぶことで、自分で選んだ1冊に思いを深め、読書ポスターを作成した。
- ・小グループでの話し合いをする場面を毎時間設け、必ず自分の考えを発言する場を取り入れることで自己存在感をもたせるようにした。
- ・ポスターを廊下に掲示し、学年の友達にも紹介したり、感想を伝え合う「読書はがき」を出し合ったりする活動を取り入れたことで、共感したり、友達の感じ方のよさに気付いたりしていけるようにした。

<成果>

- ・「戦争に関する本」のコーナーを設け、並行読書をする時間を多く取ったり、自分で選んだ本を紹介したりしたことで、普段は自ら手に取ることがないであろう本にも興味をもち、読むことができた。
- ・「自分と同じ」「同じだけど理由が違う」「なるほど」と友達の考えを自分の考えと比べて3色のシールを使いながらグループでの話し合いを行ったことで、友達の考えをよく聞こうとする意識を高めることができた。



<グループでの話し合い>

### 4. 今後の課題

- ・戦争という時代背景を考えながら読むことの難しさを感じた。読書ポスター作りは学習の中で並行して進めるようにはしたがうまく時間を使うことができなかった。計画的に進めていく必要がある。
- ・言葉の意味がわからず、そこで時間を取られることが多かった。語彙力をアップさせる取り組みを今後は意図的に取り入れていきたい。

## 第6学年1組授業実践

### 1. 単元名 心に響く表現を味わい、伝えよう 『川とノリオ』

### 2. 身に付けさせたい力

登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える力

### 3. 仮説検証のための手立て

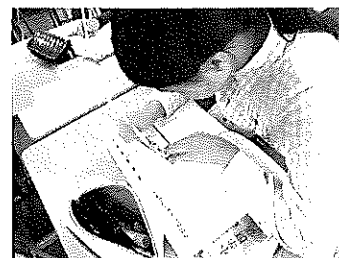
#### 仮説1 指導過程や指導方法の工夫改善

<手立て>

- ・単元を貫く言語活動をリーフレット作成とした。読みの観点を明確にし、「①あらすじ、②比喻や擬人法などの表現、③川が表していること」などの観点をまとめた。
- ・授業の初めに「6年で集めて使おう 言葉達」と題した言葉ドリル学習を行った。

<成果>

- ・授業中に教師モデルのリーフレットを活用することで、観点を明確にして作成することができた。
- ・繰り返し、言葉ドリル学習に取り組んだことで、難語句への抵抗感が減ったように感じる。また、初めて知った語句を、自分が書く文章に活用する場面が見られた。



<ドリル学習の様子>



<教師モデルのリーフレットの活用場面>

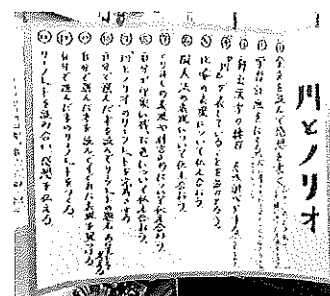
#### 仮説2 生徒指導の機能を生かした学習指導方法の工夫

<手立て>

- ・児童の考えを中心に学習計画を立て、主体的に学習を進めさせた。
- ・児童の考えにサイドラインを引いたり、「そのように考えたんだね。」と声をかけたりすることで、安心して自分の考えを書けるようにした。
- ・ペアや少人数での話し合いを行い、自分の考えと友達の考えを比べながら聞き合うことで、様々な考えがあることを認め合えるようにした。

<成果>

- ・全体での話し合いの前に、ペアでの話し合いの時間を確保した。同じ意見の友達がいることや自分の意見に共感してもらえたことで、自信をもって話し合いに参加できたように見える。



<児童と考えた学習計画>

### 5. 今後の課題

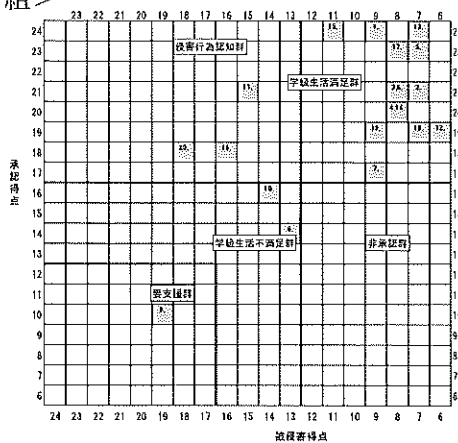
- ・『川とノリオ』に関係する戦争を題材とした並行読書した作品から読み取ったことをもとに、リーフレットを作成したが、仕上げることに時間がかかってしまったので、付けたい力、言語活動、単元の計画をよく検討する必要がある。



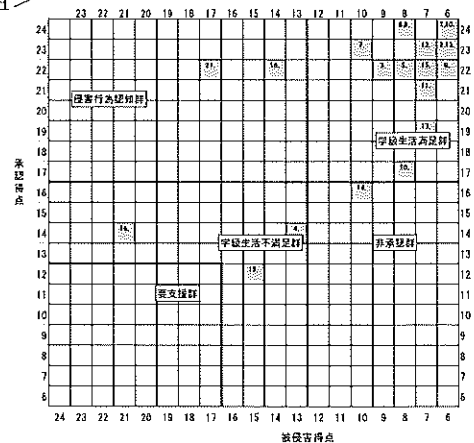
<安心して自分の考えを書けるような支援>

## 前期 QU アンケート結果

< 2年1組 >



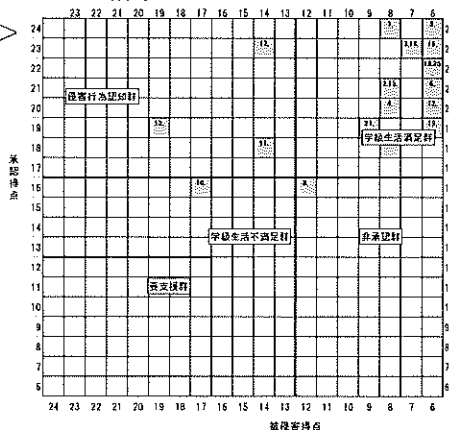
< 5年2組 >



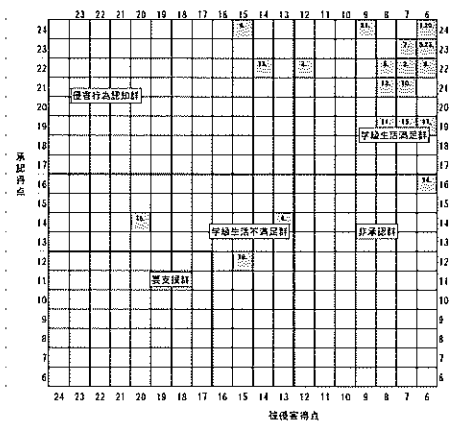
どちらの学級も、70%程度の児童が**学級生活満足群**（学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童）に属しており、比較的まとまりのある学級であることがわかる。一方で、**侵害行為認知群**（いじめや悪ふざけを受けているか、他の児童とトラブルがある可能性が高い児童）と、**学級生活不満足群**（耐えられないいじめを受けていたり、悪ふざけを受けていたり、非常に不安傾向が強い児童）、**非承認**（いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められることが少ない）に属している児童もいる。以上のことから、学校生活における様々な場面での称賛だけでなく、「授業における称賛や励まし、認め合う」ことがよりよい学習環境を醸成し、かつ、学力の向上につながると考えた。生徒指導の機能を生かした授業展開をすることで、これらの児童の承認欲求や認知欲求を向上しつつ、チェックリストを活用してさらにまとまりのある学級づくりを目指した。

## 後期 QU アンケート結果

< 2年1組 >



< 5年2組 >



それぞれの学級において、1回目と2回目のQUの**学級満足度尺度**の結果を比較すると、プロットの状態が右上に上がった形になっている。**要支援群**や**学級生活不満足群**に属していた児童は、具体的な手立ての取り組みにより、**承認得点の上昇**、**学級不満足得点の低下**が見られたり、「**学校生活意欲点の分布**」も向上したりした。以上のことから、授業における生徒指導の機能を生かすことが、児童の学習意欲や学級に対する所属感を高める一定の効果があつたと思われる。

QUアンケートの実施によって、困り感をもっている児童に、どのようにアプローチすることが有効であるか、また必要であるかが見えてくる。その指導・支援の手立ての構築において、生徒指導の機能を生かすことで、児童だけでなく、教師の指導力・授業力向上に結びつくと考える。「もっと学びたい・知りたい・調べたい」といった気持ちをもたせ、知識を深く定着させるために「使ってみたい・伝えたい・よりよくしたい」とすることで、「主体的・対話的で深い学び」につながると考える。